

勇気づけの子育て



日本学校教育相談学会山形県支部 理事長 佐藤 節子

1 はじめに

近くの人と少しだけお話してみよう

研修会の目的

- ・ 自立と仲間と共に育つ子どもにするための親のかかわり方について学ぶ

研修会の目標

- ・ 反響的な聴き方ができるようになる
- ・ 子どもが問題を解決できるようになるのを助けよう
- ・ Iメッセージを使ってみよう
- ・ 子どもを勇気づけよう

アドラーの言葉：人間の悩みはすべて対人関係の悩みである。



子育ての目標は

自立 社会と調和して暮らせる

そのための心理面の目標は

私は能力がある 人々は仲間である

人間の最も根源的な欲求は「所属欲求」である

2 子どもの好ましくない言動には目的がある

人は所属の欲求を得られないとき、好ましくない行動をとる →

【好ましくない言動への対応】

- ・ やさしい無視
- ・ 建設的な言動を探し認める・勇気づけ
- ・ 反響的に聴きながら問題解決の模索を図る
- ・ 柔らかな直面化
- ・ Iメッセージで伝える
- ・ 子どもたちが自分の行動の責任をとるように動機づける

- ・ 関心・注目を集めたい
- ・ 主導権争いをする
- ・ 仕返し・復讐する
- ・ 無気力な態度を示す

3 反響的な聴き方

まずあなたが話を「聴いている」ことを子どもたちに知らせる必要があります。

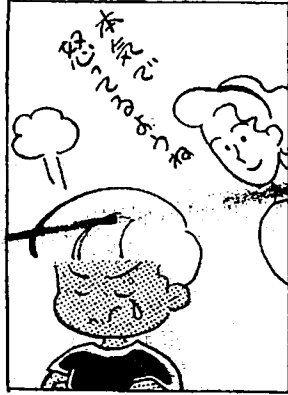
その言葉だけでなく、言葉の背後にある感情を理解し、それを子供に伝えることが必要です。

4 「問題解決への模索」の6つのステップを学ぼう

「こう言えば良かったのか
納得子育て楽勝法」
柳平 彬
ダイナミックセラーズ出版



④ 子どもが一つの解決策を選んだら、実行したときにどんなことが起きるかを話し合う



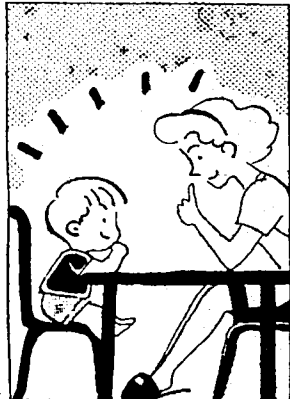
① 反映的に聴き方をし、子どもに自分の気持ちを、はっきり意識させる



⑤ 子どもが決断するようになり、親子のあいだに約束する



② 子どもとブレイン・ストーミングをして、さまざまな解決策を考えてみる



⑥ あとで、うまくいっているかどうかの親子でもう一度話し合う日と時間を決める



③ 考えた方法の可能性を子どもがいろいろ検討できるようにして、その中から一つを選べるようにする

5 Iメッセージ

子どもに影響力を持つために、子どもにこちらの気持ちや考えを理解してもらえるようなコミュニケーションをしよう。話し手が何を感じたかを話すこと。発言の主体はこちらで、子どもに焦点を当てません。良い悪いの判断や怒りを込めてしまうと、Youメッセージと同じになってしまいます。

- ① あなたが・・・するとき (子供の言動を述べる) あなたが片付けないと
- ② 私は・・・と感じる (親の感じたことを述べる) わたしはとても困る。
- ③ なぜって・・・(『結末』を述べる) なぜって・・・

罰に替わる対応・・・選択の余地と論理的結末

6 子どもたちを勇気づけよう